

かわぐち消化器内科

第23回 肝血管腫とは？

健診の超音波検査で指摘される肝臓疾患の中で、肝血管腫は、脂肪肝、肝のう胞に次いで頻度の高いものです。肝血管腫とは、細い血管が集まってできた塊で、肝臓の良性腫瘍です。血流の関係で見えたり見えなかったりする場合があることからカメレオン腫瘍ともいわれています。先天的な要素が多く、明らかな原因は不明です。肝血管腫であれば、症状はなく、良性なので治療は必要ありませんが、本当に肝血管腫であるという診断(肝臓がんでないことの証明)が必要です。小さな血管腫が多いですので、超音波検査で色合い(白色調の場合が典型例)や大きさの変化で判断する場合があります。経過観察で増大した場合は、肝臓がんの可能性があり、あやしい場合には、造影CTやMRI検査を行い、確定診断する必要があります。一般的に肝血管腫が悪性化することはありません。心配な方はご相談ください。



院長 川口 義明



かわぐち 消化器内科

TEL 045-830-5311

港南区港南台5-23-30
港南台医療モール3F



〔診療時間〕

午前 9:00-12:00

午後 16:00-18:00

〔休診〕

木曜・日曜・祝日

(土曜午後)

